1 山形県の現状

県内の高速道路はネットワークが未完成で、利用しにくい環境にあります。
東北各県に比べ、**自動車専用道路分担率※が低い**状況です。



TOPIC 新直轄方式とは

国と県の費用分担で高速道路を整備する方式です。採算性の面で東日本高速道路会社による建設が困難な路線のうち、緊急性、必要性の高い路線が指定されます。県内では福島県境～米沢北、東根～尾花沢、温海～鶴岡JCTの区間が該当します。

【自動車専用道路分担率※（平成17年）】



※自動車専用道路は、全国で全長14,000kmの高速道路に指定されている高規格幹線道路と、国道47号新庄南バイパスなど60～80km/hの速度サービスを提供できる質の高い地域高規格道路をいいます。自動車専用道路分担率とは、県内の全ての道路に対する自動車専用道路を利用する割合をいいます。

基本方針（テーマ）1

新たな交流と連携を支えるみちづくり

より速く、快適・スムーズな移動を支援します



平成18年度以降への反映

主要都市間の高速ネットワーク形成を促進し、更に利用しやすい高速道路を目指します。

3 平成18年度の代表的な取り組み（業績計画書）

平成18年度は**高速道路の一部開通**や、**高速道路の利用を促進するための取り組み**を実施していきます。

自動車専用道路分担率

平成17年度 実績	平成18年度 目標
3.2%	3.2%以上

取り組み1 国道13号尾花沢新庄道路（高速道路）の開通

現国道13号を走る多くの交通が高速道路へ転換することが期待されます。その結果、交通渋滞の解消や交通事故の削減が図られると同時に、新庄～尾花沢の時間短縮も図られます。


▲尾花沢新庄道路



▲期待される時間短縮



取り組み2 山形自動車道寒河江SAスマートIC社会実験の継続

社会実験の効果がみられたため、継続して実施します。

●寒河江中央工業団地から最寄りICまでのアクセス時間　実験前 11分 → 実験中 6分　5分短縮

平成17年度を振り返って

高速道路の利便性が高まりましたが未完成区間が多く、まだまだ不便な状況です。

2 平成17年度に実施した代表的な取り組み（達成度報告書）

高速道路の工事を推進するとともに、既存の高速道路を利用しやすくするために、スマートIC社会実験などを継続的に実施しました。

自動車専用道路分担率 目標達成

平成17年度

目標	実績
3.0%以上	3.2%

取り組み1 国道13号主寝坂道路（高速道路）の部分開通

大型車のすれ違いができないトンネルや、自然災害による通行止めが解消され、山形～秋田の交流に寄与しました。

現道国道13号主寝坂道路の位置





▲旅行時間の変化



▲新庄駅駐車場のナンバー内訳

利用者の声

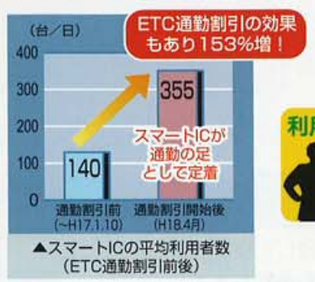
現在のヘアピンカーブが解消されれば、通行経路として見直すこともでき、タンクローリーの乗務員は随分助かると思います。（仙台市青葉区・石油会社）

取り組み2 山形自動車道寒河江SAスマートIC社会実験の継続実施

救命救急センターへの搬送時間の短縮（3分短縮）や、ETC通勤割引によりスマートIC利用者は大幅に増加しました。



▲寒河江市立病院から県立中央病院（救命救急センター）への搬送ルートの変化



▲スマートICの平均利用者数（ETC通勤割引前後）

利用者の声

朝通勤するのに、とても助かっています。特に冬期は渋滞を回避でき、いつも決まった時間に出勤できます。（寒河江市・公務員）

平成17年度代表的取り組み



1 国道13号主寝坂道路
2 山形自動車道寒河江SA スマートIC社会実験